



5月号

令和7(2025)年4月30日

あいさつは笑顔のスイッチ

校長 衣笠 裕美

つつじが花を付け始め、校庭の木々の新緑も美しい季節となりました。先日の参観・懇談会には多数ご来校いただきありがとうございました。

子どもたちは、毎日元気に登校しています。集団登校では6年生が1年生に気を配りながら登校しており、仁川小学校の最高学年として頼もしく思います。

学年が一つ上がり、新しい友達や先生と出会い、新しい人間関係を築くことができてきた頃です。そんな今の時期だからこそ、大切にしてほしいことがあります。それは「あいさつ」です。

朝、校門に立って子どもたちを迎えていると、「おはようございます!」と元気にあいさつを返してくれる子、「おはようございます」と少し控えめな声で応える子、軽く会釈をして通る子、そして時にはあいさつが返ってこないこともあります。子どもたち一人ひとりの様子には個性があり、あいさつの仕方にもその日の気持ちや状況が表れているように感じます。元気な声であいさつを返してくれる子には、「気持ちのよいあいさつをありがとう」と自然に声をかけたくくなります。また、けがをしていた子に「大丈夫?」と尋ねると、「うん、もう治ってきたよ」と笑顔で答えてくれたことがありました。こうした日々の小さなやりとりの中に、心と心が通い合うあたたかさを感じます。

あいさつは、相手の心を明るくし、自分の気持ちも整えてくれる不思議な力を持っています。その意味で「あいさつは笑顔のスイッチ」とも言えるでしょう。たった一言のあいさつが、人と人との距離を縮め、場の空気をやわらかく変えてくれるのです。

あ あいさつひとつで い いい日がはじまる さ さあ、えがおで つ つながろう!

あいさつは人と人をつなぐ大切な一歩です。気持ちのこもったあいさつが自然に交わされる学校は、それだけで安心感に包まれ、温かな学びの場となります。

ご家庭におかれましても、登校時の「いってらっしゃい」、下校時の「おかえりなさい」といった日々のあいさつを大切にいただければと思います。家庭で交わされるあたたかなことばの積み重ねが、子どもたちの心を育み、あいさつという“笑顔のスイッチ”を自然と身につけることにつながっていきます。

子どもたちが笑顔いっぱいの学校生活が過ごせるように教職員一同で努めてまいります。今後もご家庭のご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

～スクールカウンセラー(SC)とスクールソーシャルワーカー(SSW)について～

スクールカウンセラーの先生が月1回、スクールソーシャルワーカーの先生が月3回程度来校されます。カウンセラーというと何か大げさにとらえられそうですが、日頃の子育てに関する悩みや子どもの成長で聞きたいことなどの話し相手と気軽に考えてもらえればよいと思います。不安に感じることや心配ごとなどがあれば、学校に連絡をしてく